

新建みやぎ

やっぺあ

新建築家技術者集団 宮城支部-Web

URL: [宮城支部](http://www.miyagishinsaiabo.com) | [新建築家技術者集団-新建web](http://www.nu-ae.com) (nu-ae.com)

2024年(令和6年)1月発行



写真イ 石巻市日和山から



写真ロ 東松島市・野蒜北 森さい生醫院



写真ハ 東松島市・大曲 防潮堤



写真ニ 石巻市・萬画神社

★新建築家技術者集団 宮城支部からのお知らせ

- ✓ 2024年2月11日(日・祝日) 13時~17時, 12日(月・振替休日) 10時~17時
新建宮城支部後援行事 『東日本大震災100の教訓 復興検証編』出版記念研究交流集会
 会場: 東北大学片平キャンパス・エクステンション教育 研究棟 6階 講義室A (地域イノベーション研究センター・会計大学院) — オンライン併用によるハイブリッド開催 **会場案内 5ページ**
参加申込はコチラ → https://miyagishinsaiabo.com/reconst_verific_seminor202402/

- ✓ 2024年2月13日(火) 18時30分~, **新建築家技術者集団宮城支部 例会**

★No.278号 目次

	頁
□ 新建宮城支部 石巻市・東松島市・女川町の被災地復興視察記録(その1)	2
□ 【まち・建築人/口伝2②】 裁判から見えてくるのは建設ムラ 大石 勝さん 大空構造	4
□ 新建宮城支部例会 2月13日(水) 18:30~	5
□ 事務局だより・編集後記	

★★★ 新建宮城企画 ★★★ 石巻市・東松島市・女川町の被災地復興視察記録（その1）

仙台駅東口で待合せ、京都支部の久守一敏さんも合流。一路東松島へ。まずは東松島市の大規模集団移転の一つである野蒜北部丘陵地区に到着。真新しい住宅地の一角に古民家のような風格の建物が。これは、佐々木文彦さんの仕事である古民家再生による診療所である。内部も素晴らしい。このような診療所との出会いは、生まれて初めてである。待合室の古民家風の雰囲気がとても心地よい。この空間に佇むこと自体が診察と思わせる雰囲気（表紙写真1口）。

医院の名前は「森さい生醫院」。栗原市若柳から築130年の古民家を移設したそうである。建主（医師）の親族は、1960年代まで野蒜を拠点に診療活動をしていたとのこと。ここで結論めいた事を言うのもせっかちではあるが、これが復興にふさわしい仕事なのかも知れない。

カウンターにあった診療所完成の新聞記事を追うと、佐々木さんの「私自身の集大成」とのコメント。一方、建主（医師）は「新しい地（集団移転地）で生活をスタートさせた皆さんの健康を守ることに責任の重さを感じる」と。

流失した旧野蒜駅（今は東松島市東日本大震災祈念公園）に向かう。周りは災害危険区域（東松島市の場合津波防災区域）が指定され、住宅の建築行為が制限されている。以前に訪ねた時には、ポツンポツンと建っているという感じであったが、今回は考えていたよりも結構建っている。いずれもっと建つ予感がする。もちろん災害危険区域の見直しの論議もあるだろう。

津波被災地を新たな工業団地として整備した場所を見て、防潮堤に上り360度見回した。何と言っても強烈なのが延々と伸びる防潮堤である（表紙写真ハ）。この防潮堤によって守られるものは工場？広大な空地？そもそもこの辺の土地はもともと海。北上川によって運ばれた砂による堆積層とのことで（昨年、NHKのプラタモリで放送していた）ますます防潮堤の役割への疑問が膨れ上がる。

集団移転による東矢本駅北地区を見て、石巻市街に向かう。津波被災を契機に整備された土地区画整理事業地区には、空地が目立つ。被災市街地復興という名称の土地区画整理事業なのだから、事業後は早期に建物が建っていても良いのであるが、どこの地区も空地、資材置き場が多い。

石巻市の市街地のシンボル日和山に到着。相変わらず眺めはすばらしい（表紙写真イ）。被災前は仕事をさぼってスケッチに来たことを思い出す。西條さんが、すかさず北上川河口付近を指さして「あの橋は全く無駄だ」と。その西側には広大な石巻南浜津波復興祈念公園が広がる。

しかし、被災地ごとに祈念公園があるが本当に必要なのかも疑問だ。それよりも、本当の復興とは、何故これだけの犠牲者であったのか。その背景、要因を明らかにすることから復興は始められなければならないのではないかと考えている。しかし、それをやらない、やりたくないという理由も察しがつく。

「いしのまき元気いちば」で昼食。一気に眠気がまわる。

今回は、中心部の視察時間がなかったが、各種の復興に係るハード事業を行った地区と、そうでない地区の落差がますます広がっているようだ。市街地再開発の事業計画及び実施設計が終了したことになっているのは11地区で、うち事業完了は5地区、他は事業化が困難又は断念と聞いている（次ページの写真）。

「所有から利用」という掛け声で災害公営住宅需要を当て込み、国のバックアップもあったが、結局は住宅再建の流れは蛇田地区へ。平時でも同時多発・集中的な再開発事業の実施は困難である。事業化の見通しが無くなった地区では空地が増え、荒廃が進行しているようにも思える。いずれにしても生活の質の低下、環境の悪化は明らかである。そして広がる格差を放置した復興などというのはあってはならないとも思う。先の行く末を「人類の共通言語のマンガで世界平和に貢献し、子供たちに夢と希望を与える神社」である萬画神社（御神体萬画章命/よろずえがくあきらかのみこと。表紙写真ニ）に祈願し、旧観慶丸商店（建まち

№533.2023年9月号に全国幹事・西條芳郎さん寄稿)の前を通過、蛇田地区に向かう。

ここは、集団移転事業による巨大団地で、急ぎ造成された。最近、この蛇田地区への大規模な移転集中も宮城県の意図であったことを知り、驚いている。改めて県の自治体の復興まちづくり事業への介入の問題を検証するの必要を感じている(宮城県は『復興初動期物語』としてまとめている(非売品))。

ここから今回の宿泊先である桃生郡北上町に向かう。この桃生と

という言葉が何だか桃太郎の生誕地(岡山県ではあるが)みたいで、前から気になって調べたが、歴史書『続日本紀』(平安時代初期に編集)に出て来るそうである。

旧北上川河口から約5km。北上町に入って、間もなく有名な長屋門のある北境地区に入る(下、写真)。その見学をしていると昔からの集落がまだ現存しているというので移動する。驚くやら感動するやら、立派な農家が立ち並ぶ、いかにも古くから存在するという佇まいの集落の入口に立つ。宮城県内にこんな凄い農業集落があったとは・・・江戸末期ごろは茅葺であったが、今は、その小屋組を生かし、スレート葺きにしたようだ。この葺き替えは明治期に行ったとか。

過去には、大学の歴史意匠の先生が中心になって、伝統的建造物保存地区指定の動きがあったという。しかし、残念ながらこの伝建地区指定には至らず、すでに一部ではあるが最近の住宅に建替えた所もあり、残念無念。とにかく普通の農家集落ではなく、一つ一つの農家の風格から、大変裕福な集落であったことがよく分かる(下、写真)。

ここでの伝建地区指定の動きは、新建としてもまとめて多くの人に知らせる必要があるだろう。もし、この北境地区のような街並み、集落景観を残そうとする地域、都市文化が根付いていたとすれば、今回のようなスクラップ&ビルドの復興にはならなかったと思える(陸前高田市などもその代表。忸怩たる思いが伝えられている)。

こんな調子の報告ではあるが、次号掲載の新建支部「定宿」である追分旅館(物語がある)とそこでの語らいも面白かった。(視察2023年9月(その2)は次号。お楽しみに)

【写真】旧北上町北境地区の長屋門(写真左)と集落(同右)



【写真】石巻市中心部の復興関係の市街地再開発事業位置図

【まち・建築人／口伝2②】

建築構造家 大石 勝さん（大空構造/新建宮城支部 78歳）

もう20年も裁判と付き合っていますが、ほんとに様々だと。建築の構造の裁判の問題点は3つ、まず構造欠陥は表面に出ないことが多く、マンションの大規模修繕などでしか現れてこない、次に施工も管理もしていない建築主が欠陥を調査し証明しなくてはならない、最後は時効の問題です、民法の除斥期間20年は、竣工して建て主に引き渡された時点から20年以内に欠陥を裁判に訴えなければ賠償請求出来ない。

一つの例、築後19年で8階建てマンションの大規模修繕を始めたたら、大梁に使われていないスリーブ穴と後から抜いた貫通孔があり、更にひどいのは大梁に後抜きで縦の貫通孔（大梁主筋の切断あり）、これらはドリルでの穿孔だから、当然に穴の周りのコンクリートの中に必要なスリーブ補強筋が入っていない。

また柱梁の交叉部分では、照明器具取り付けのためコンクリートを研ると帯筋の切断など（写真上）が見つかる。大規模修繕の工事会社が建築した会社と違っていたので住人側に報告がなされたのでしょう。

裁判になった後の調査で、耐震構造上で重要な柱壁間のスリット（切り離し）が設計にあって該当部に無い。スリット位置にそれらしい幅広いシール目地があるが、剥がすとコンクリートがそのまま（写真下、柱と壁の交叉部）。手抜きを隠す意図的な隠蔽工事と思われる。

瑕疵がわかり建築した会社が修理を約束し、修理中に新築から20年が過ぎた。その間にも瑕疵が見つかり、こじれてマンションの住人が裁判に訴えた。しかしこれ程明確な建築基準法違反の瑕疵があっても、最終的に判決は、裁判提起時は除斥期間を過ぎていたから建築した会社に修理する責任は無し、である。

また別の9階建てのマンションだけど、1階の柱脚で土間厚さを含む範囲の帯筋間隔が基準法令で最大10cm以下のところ、最大27cm、最少16cmと8本の柱全部が違反していた（これも調査で明らかになった）。

その修理で、建設業者はコンクリートを研ってフープ入れコンクリートで埋めるとし、裁判所が認定した専門家も追認する。建築基準法令に建築基準法違反の補修法の条項は無いので、様々な提案が可能になる。

別の鉄骨二階建て住宅の裁判の時の話。裁判所認定の専門家は、鉄骨の柱と梁の交差部の中にあるべき内ダイヤフラムという鉄板が無い時、外に外ダイヤフラムという鉄板を溶接すればいいって。鉄骨工場での加工とはちがう、現に住んでいる住宅です、ほんと好き勝手だなあって。

復興公営住宅建設時のことだけど、隣接する住宅の居住者が、その公営住宅工事でダンプや砂利の荷下ろしの振動で住宅が損傷したっていう訴えをしたら、裁判所には認められず、それどころか被害者に工事で損傷したことを証明せよだって、工事内容すら知らない素人にだよ、とんでもないよね。

要するに裁判では、建築基準法違反だけど立て直しなどは社会的損失が大きすぎるので直せるものは直すって考える、建築基準法に無い修理法となると正解は無く、こうなると建築関係の専門家、業者や研究者、学者まで引張り出されて業者寄りの持論が出される、素人の住人、建て主は太刀打ちできない、こんな時に建設村を感じてしまう。

（考えられないことが起きてるんですね）

2005年に元建築構造士の構造計算書の偽造事件が発覚して、その後構造一級建築士という制度ができ、構造の責任が明確になったよね。それで構造の設計料も倍ぐらになったけど、構造の瑕疵責任って意匠では考えられない



ほど、とてつもなく大きいんだね。それで若い人が構造一級として、仮に間違いがあれば後に大欠陥になるわけでしょう。未熟だったらミスはあるよね。特に今はパソコンパッパッってデータ入力する。例えば床の荷重一桁間違えて軽くなった場合、結果はOKになっちゃう。それをチェックするために適合性判定（構造計算適合性判定）ってあるんだけど、ミスを見逃す場合だってある。

それが全部個人責任になってしまう。だから若い人は責任持てないよね。大学でも構造に進む人が少ないって言った。だから構造設計をやるのは大きな事務所にならざるを得ない。それでも今は即戦力を求める。昔は中小企業でも、社長も含めて若い人が入ってきたら「俺の技術を継がせる」っていう一生懸命育てようとする雰囲気があったよね。いま、モノづくりの世界が全部そうなんだけど、これどうなるかやっぱり気になるね。

*

長男は、大学は経済だったけど、仙台に戻って建築の専門学校に通って、いつの間にか建築構造をやり始めて構造一級とったからね。次男も経済を勉強して生協に勤めたけど電気工事の仕事に。三男も土木から造園へとみな建設関係です。どうのこうの言ったわけではないけど。（了）

（取材 2023 年 8 月 22 日）

■事務局から

元日に発生した能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

いまも断続的に余震が発生しており、また一段と寒さも厳しくなり不安が募るばかりですが、被災地域の皆様の安全確保と、一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

*

昨年 12 月 8 日に 2023 年度の定時総会が行われました。久々の新入会員の参加もあり、活発な意見交換が行われました。最初に、自己紹介を行い、早速西條幹事より報告が行われました。戦争・ジェノサイドそして環境・都市破壊と大変幅の広い情勢報告から、その根源である政治、経済政策、都市・建築をめぐる課題についてふれられました。

また、宮城支部活動のフィールドである県内の課題については、復興や女川原発再稼働の問題について強調され、温暖化対策や環境保全の活動の重要性について話されました。また、新建メンバーも中心的な役割を担っている県が強権的に進めている「県営住宅の廃止問題」や「4 病院統廃合問題」等についても共有化が図られました。

2022 年度活動・会計報告と 2023 年度活動方針、2023 年度予算案、スローガン他について検討し、採択されました。討議では今年度の重点として①会員拡大について、コンサルや研究者・自治体職員にも加入を勧め、②新建宮城支部設立 55 周年の行事の実施について検討することも確認されました。

土山 拓

『東日本大震災 100 の教訓 復興検証編』出版記念
研究交流集会 会場案内: 東北大学片平キャンパス



編集後記:

前号と 2 回にわたり大石会員の活動を
紹介した。続編に期待。「今年はカマキ
リの巣がないねえ」と新年あいさつで
親戚の嫁さんが口にした。ご存じの通
り、毎年カマキリは降雪量を予想して
巣づくりをする。異変、戦争、災害対応
…今年も大変な年になりそうだ。

S.A